

官僚機構をどう改革するか

衆議院議員
河野 太郎

- * ずっと行政改革に関わってきた
- * 一丸になった時の官僚組織の凄さ
- * 防災経験でエースを育てる
- * 英語の力が落ちた外務省
- * 文科省天下り斡旋の構図
- * 働き方改革阻む国会の壁
- * 「改め文」撲滅の闘い
- * 身分制と年功序列の打破
- * 官民交流の新たなルール作り
- * 原発ゼロへの道筋を明確に



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は衆議院議員の河野太郎さんにおいていただきました。ご存じのように現在国会開会中でございます。1時から開会でございます。それで、無理を申し上げまして11時半からお願いをし、会員の皆さんにも今日は変則でございます。まして、ご容赦いただきたいと思えます。1時間ほどお話しいただき、10分程度質疑応答をしていただき、12時40分にはここを出発になります。

ご存じのように河野先生は慶應義塾大学からジョージタウン大学を卒業され、その後、富士ゼロックス等でビジネスの世界での経験もされた後、96年に衆議院初当選、以後7度連続当選をされております。外務委員長、行政改革担当

大臣などを歴任され、現在、行政改革推進本部長をされています。ということで、今日は官僚機構の改革についてのお話を中心に、現在の状況についてお話をいただきます。

それでは河野先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

ずっと行政改革に関わってきた

河野 ご紹介を賜りました衆議院議員の河野太郎でございます。今日はこのようなところにお招きをいただきましたことありがとうございます。

福田康夫内閣のときに、道路特定財源でマツサイジ機を買ったとか、ソフトボールのベースを買ったとか、随分話題になりました。税金を